

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 94

2010年12月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



紅葉・黄葉が舞う街へ 牛久の街路樹、変貌中！

チーム街路樹20

増田勝彦

今年は剪定されなかったため、紅葉が見られる
ふれあい通りの「ユリノキ」 撮影・増田11.11.12

昨年、紅葉前に剪定された
ふれあい通りの「ユリノキ」



黄葉・紅葉が舞う街へ 牛久の街路樹、変貌中！
会報六月号に「黄葉・若葉を自然なままに感じたい！」とする記事を投稿しました。ここ数年、黄葉を見ることができない牛久市内の街路樹であるが故の、感じたい でありました。しかし、今年の市内は、黄葉の街路樹が、赤・黄・グラデーシヨンの色さまざまに舗道を飾っています。昨年とは違って変わって、黄葉の街、牛久へと変貌を遂げました。

チーム街路樹20は、昨年から市と協働で、モデル地区の落葉かきを実践しています。しかし、市が規定方針を変更して、黄葉前の剪定抑制をこんなに早く、ほぼ全市内で実行するとは予想外でした。六月号の会報では、我々は市内全域が剪定抑制地域になるまで活動を続けます。メンバー全員が落葉をゴミとらえずに自然界の贈り物としてとらえています。と、少々悲壮感が漂っています。いつの日か、落ち葉を踏みしめて歩ける街にしたいという願望でロマン(夢)活動を発足させましたが、不断に黄葉が見られる街になれば、ロマンの名前を変えてもいいのかなと思います。来年も継続されるかどうか、引き続き市の対応を見守っていく予定です。

ロマン活動の一年をふり返ります。
昨年十二月、黄葉・若葉の豊かな理想地域としている松戸市常盤平に、剪定業務を仕切る市緑化推進課の課長・担当の皆さまをご案内。黄葉の美しい街並みを見学後、松戸市の(みどりと花の課)ご担当者から、剪定方針についての話を聞き、資料をいただきました。今年二月には、緑化推進課と街路樹メンバー十一名で、市内緑化に関する懇談会を開催、剪定のあり方についての意見交換。さらに七月には池邊市長にご面談して、緑あふれる市の街造りについて、積極的な理念を伺うことができました。

中央図書館前の落葉かきを見ていた土浦市のお母さんから、幼稚園の焼き芋大会に落葉を欲しいと言われ、大きなゴミ袋で十袋進呈。後に、モミジバフウの葉っぱがカサカサと乾燥して上手に焼けて、園児が大喜びでしたとお礼の電話をいただいたのは嬉しいことでした。

現在、チーム街路樹20の十九名のメンバーは、市内樹木六五〇本に樹名板を付けたあとの巡回管理をする一方、市広報うしくに、「わが街の木」の記事と写真を提供するボランティア活動を続けています。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告



巨木リサーチ2事業報告

平塚 芳雄

巨木ガイド参加者のアンケート紹介
巨木リサーチ2巨木ガイドG・写真Gは牛久市との協働事業として、巨木探訪会（巨木リサーチ2のガイド活動）においてガイド役を務めました。

探訪会は市内を三つの地域（東部、中央、西部）に分け、平成二十一年度に三回、同二十二年度に二回実施しました。案内した内容は巨木リサーチプロジェクトが平成十八年度から三年間調査してきた、市内の巨木等百六十四本（四本は調査後伐採）の調査結果を基に選定した巨木等と、その生育環境である社寺等の歴史です。訪問地は社寺、個人屋敷等二十六箇所、紹介した巨木等は五十七本以上です。

探訪会は参加者の募集、バスの手配、当日の受付等は市側が、当方は案内するコースの設定・下調べ、配布資料の作成と当日の案内役を担いました。

探訪会の開催毎に参加者（一般応募参加者は五回計で延べ百四十一名）にアンケートをお願いし、探訪会の意義の確認、運営の改善等に役立ててきました。十月二十三日に実施した探訪会をもって一区切りとし、過去五回分のアンケートを集計、整理しました。

先ず、参加者の男女別構成比ですが、実施時期により多少男性が多かったり、女性が多かったりの変動がありました。全体的にはほぼ半々の構成。年齢構成は男女とも六十歳代と七十歳代が主で、特に男性は各時期とも六十歳代（六十六％）と七十歳代（三十三％）に集中、八十歳代が一名のみ。女性の方は六十歳代が過半（五十六％）で、七十歳代（十九％）と五十歳代（十九％）がほぼ同数、四十歳代、三十歳代の方が三名でした。

探訪会参加の理由としては、樹木や巨木等そのものへの関心、牛久市における巨木の実態、社寺を通



結束町鹿島神社の由緒等の説明を聞く一行

戸塚 10.10.23

じての地域の歴史への関心と共に、地元牛久のことを知りたいといった理由が高い割合を示しています。探訪会での関心・興味の方向としては、案内の中心であった巨木の樹種の特徴や社寺の歴史の割合が高いが、巨木の測定法や太さ・高さの測定結果に対する関心も低くはありませんでした。

参加者の感想・意見等では各回とも好意的な感想が多く、個人では出来ないことを企画してくれたことへの評価・感謝、継続実施の要望も多くありました。案内役を務めた里山の会への感謝、地元牛久を再認識したとの言葉もあり、探訪会を開催した意義が実感できます。

ただ、昨年度は定員オーバーの応募者が今年度は定員未達成で、その要因は何かを考える必要性を感じています。



雑木林応援隊
雨宮 寛之

巨樹 その二

今年の四月頃だったかと思いますが、会報原稿を頼まれたのに、転勤帰りで活動報告が書けず、巨樹・里山秋祭りが、季節外れの台風で中止され、大人気の「ツルカゴ教室」が流れてしまったための種切れで、苦し紛れの巨樹紹介となります。

会津若松の新潟より推定樹齢五百年のケヤキがあります。関ヶ原の合戦前に、上杉景勝が神指城築城のために築いた土塁の上に有るためか、地名が櫛木壇とありました。

結局、神指城は豊臣方が破れたために築かれず、大木だけがそのまま残されたと説明板に有りました。ケヤキの大木は数多くありますが、ここが記憶に残っているのは、同じようにカメヲを抱えて写真を取っている人が来て、その人の車が結構遠くのナンバーだったので、好きな人は結構いるもんだと感心しました。概して、ケヤキの大木はその姿形が整っている、写真に撮るには結構です。



高瀬の大木 樹齢500年のケヤキ

山内丸山遺跡程古くは無いのですが、平安時代の「口遊」に「雲太、和二、京三」と言う言葉が有るそうです。意味は、出雲大社、東大寺の大仏殿、京の大極殿の順に大きな建物を歌っているとの事。今の出雲大社は、約二十四mで、東大寺大仏殿の約四十五mよりも低いです。昔々は、約九十六mも有ったと言われています。平成十二年の発掘調査で、田の字型の柱穴が確認されましたが、杉の柱三本を束ねて一本にして使った様です。現在と同程度の建物が柱の上に建ったとして、必要な柱の長さは、約七十二m。日本の緑の国勢調査に寄ると、樹高七十m以上のスギの木は、全国で八本確認されていますので、まんなら嘘八百でも無さそうですね。でも、まっすぐな柱にするにはもっと大きな杉の木が必要でしょう。七十m以上の高さを階段で登るには、優に、百mを超えらると思えますが、身体を鍛え直さないとお参りも出来ません。何回も倒れたそうですから、お参りも命がけになります。出張途中に寄った出雲大社は修理中でしたが、柱穴の説明板で満足して帰りました。



小平の大杉

待ちに待った収穫祭

十月十六日、この日は、サツマイモ、里芋の収穫を行ないました。私は、昨年もこの親子農業体験に参加していましたが、サツマイモ、里芋の収穫祭は都合がつかず、参加することができませんでした。そのため今年も、一年越しの収穫祭ということで期待に胸を弾ませました。

この日は晴天で、収穫祭にふさわしい天候でした。四月下旬に植えた里芋、五月下旬に植えたサツマイモ、今年の夏の猛暑の影響が出ていないと良いのですが・・・という気持ちのもと収穫祭が始まりました。

横目に八月下旬に種まきした蕎麦の生長をうかがいながら、まず始めにサツマイモ。子供たちは大はしゃぎ。長く伸びたサツマイモのつるをたどり、掛け声と共に根本から引っぱりました。ヒョロとした根が現れサツマイモの姿がありません。やはり、猛暑の影響で成長できなかったのでしょうか？



親子農業体験講座
一般参加者 小山 直樹



里芋の大きなはっぱの「傘で一す」

掛け声と共に根本から引っぱりました。ヒョロとした根が現れサツマイモの姿がありません。やはり、猛暑の影響で成長できなかったのでしょうか？



私は、サツマイモを探
すようにスコップで辺
りを掘り起こしました
が、サツマイモは見当
たらず、不安が過ぎり
ました。しかし周りを
見渡すと、子供たちは、

次から次へとサツマイモを掘って、大きなサ
ツマイモを手に喜んでいました。私もホッと、
黙々とスコップを動かしながら、カゴにはサ
ツマイモがいっぱい入っていました。

次に収穫した里芋は、殆ど成長しておらず、収
穫を延期することとなりました。ただ子供たちに
は葉っぱの傘のプレゼントがあり違った喜びがあっ
たようです。今年の収穫は、やはり猛暑の影響で
しょうか、例年に比べ少ないようで、天候に左右
される農業の厳しさを感じるものでした。

収穫が終盤に差し掛かった頃、かまどの方から
は、煙が立ちのぼっていて、焼き芋、芋汁の準備
が進められていました。畑から見たその風景は、
なんとも言えない里山の景色でした。

収穫が終わると、私たち男性人は、蕎麦の収穫
の準備のため竹棒を切り出しに竹藪に向いました。
この親子農業体験は、畑以外の体験も豊富で、
里山での生活体験をしているようで私にとって良
い経験となっています。

最後はみんなで芋汁、サツマイモ煮、焼き芋を
食べました。とてもおいしく、最後の閉めのカレー
うどんはなんとも言えぬおいしさでした。

秋も深まり残りわずかの農業体験ですが、里山
の雰囲気十分に味わい思い出に残る農業体験に
したいと思えます。



あやめ受託事業報告

佐藤 輝雄

やっと終わった除草作業

花菖蒲の開花シーズンを過ぎ、わが物顔に勢力
を伸ばしていた雑草も、十一月初めやっと退治す
ることができた。

特に、十月号での事業報告にも掲載されていた
が、今年の厄介者は「ヒレタゴボウ」、なかば草
を通り越して茎は木質になっていた。しかし、こ
の「ヒレタゴボウ」を抜き去ると約七割位除草が
済んだ気分になる。

ただ、「イヌビエ」「ヒレタゴボウ」等は早め
の除草が間に合わず、すでに多くの種子を田んぼ
に落とす後だった。両方の植物とも種子の数は
限りなく多く、来年以降の発芽にかなり思いや
られることだろう。しばらくはこれらを発芽とも
に退治しなければならぬ。

「ヒレタゴボウ」の種子は〇・四mm以下と、ケ
シの種子より
も小さい。作
業用の衣料に
もびつりり付
いてしまう。

この小さな種
子が1m以上
の背丈に伸び
る勢力にはむ
しろ強さ・た
くましさ感が
じられる。

十月号に掲
載されたよう
に、今年から



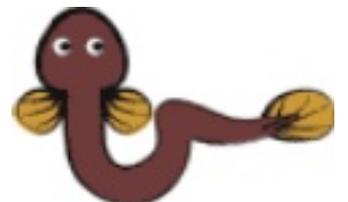
アヤメ園最後の除草をするメンバー

今までのアヤメ園とカップの碑に
行く道路の間の田んぼが、新しく
アヤメ園として拡大され(今のと
ころ私たちはF地区と称している)、
アヤメ園のための準備を手作業で
進め始めた。

この場所も、一年耕作がされな
かったらものすごい雑草に覆われ
てしまった(ヒレタゴボウがメインである)。田
んぼも放置されると、一年で耕作不能になっ
てしまう。逆に田んぼを使用していた時は、農家の人
たちも除草に手をかけることができずに、除草剤
を多く散布していたのが目に付いた。そのためか
先日、この田んぼで何人かで排水のための溝を掘っ
ていたが、タニシやドジョウ・アメリカザリガニ
等の水生動物やミミズはほとんど見ることができ
なかつた。カエル類やイナゴ等のバッタ類は地上
を動き回るため少しは見ることができたが、ちな
みにアヤメ園は作業をしているとタニシ・ドジョ
ウ・ザリガニ・ミミズ等は豊富に飛び出してくる。

二〜三年はかかってしまいかも知れないが、そ
のうちにメダカ等が泳ぎまわる池や水路を作っ
てあげたいと、皆で作業しながら話していた。それ
に小さな池で子ども達が水遊びできるようになれ
ば楽しいね!・・と。ただ、小川の流れがない
ため困難かもしれないが、実現したい構想の一つ
でもある。うまくいけば「ハイケボタル」も飛ば
したい。

夢は数多くある。二〜三年後の拡張されたアヤ
メ園を楽しみに待って頂きたい。





里山自然観察隊

小野 正一

植物観察会に参加して

今年度最後の「植物観察会」が十一月十三日（土）、城中町内（得月院前）牛久城址そして根古屋集落などで実施されました。参加者は五名（一般参加一名・プロジェクトメンバー四名）。

得月院前を九時過ぎに出発。城中の集落をゆくり歩く、クロガネモチの赤い実が青空に映える。生垣のヒサカキ、サザンカの白い花を見ながら歩くとヒヨドリが鳴き声が聞こえた。

ミカンがたくさん実っている家で庭作業のお母さんに声をかけると「食べてください」と、やさしい声。美味しい、甘い味だった。

マンリヨウ、カラスウリの赤い実を見る、ヤブコウジの実を食べる、苦い。ネズミモチはもつと苦かった。初めて食べる実はなかなかのものだが、

私の舌はビツクリしたことだらう。ハキダメギクは白くかわい。い花。な。ぜこんな名前をつけたの。たの。だ。るか。生垣の樹木



生垣に実るイヌツゲ 本田 11.11.13

を見ながら歩く。遠くに水神塚のスタジイの巨木が見えた。

家並みが途切れて、周りは畑。十時四十分過ぎ、牛久城址へ。大きな樹木に囲まれた小道を歩く。木の実が沢山落ちてきた。Tさんが立ち止まる。「これは珍しい。オオハナワラビよ」と、専門的な説明が続く。「孟宗竹を間伐したので、随分明るくなりましたよ」と何度も下調べしたHさん。伐採された沢山の竹がこちらに積み上げられていたが、成長が早い竹の山林への侵入は植物生態に大きな影響を与えていると思う。

遠くに牛久沼が見える。のどかな風景。秋の観察会は「種の観察だ」とTさん。大きい、小さい、丸い、細長い、ザラザラ、ツルツル、毛がある、無い、など感覚の世界の話に暫し呆然。その後、ヨメナ、ナズナの話しが続く。

根古屋集落の稲荷神社前に立つケヤキの幹周をHさんが測る、二・八七メートル。残念ながら巨木ではないが立派な大木だ。シロハラのチュチュウと甲高い泣き声を聞きながら、歩く。アメリカイヌホウズキの黒い実を食べる。少し甘い。「種をここへ下さい」とTさん。帰って調べると言う。根古屋川を右に見ながら、堤防道を歩く。得月院前帰着は十二時を少し回っていた。

生垣、庭、斜面林の多くの樹木を観察し、赤、青の木の実を味わいながらの散策。また、地元の人々との楽しい会話、多くの鳥の声に耳を澄ませた晩秋の風の中、楽しい観察会を無事終えることができました。



自然観察出前講座

石神 良三

子どもの成長と自然観察体験

十一月の出前先是、牛久市内の幼稚園、保育園の三つの幼児施設で、いずれも年長組（五・六歳）の子どもたちでした。

保育士さんたちの話では、子どもたちは園外散歩が大好きで、男子は虫、女子は草花に興味を示す子どもが多いそうです。虫などを見つけると取り合いを始めたりして、困ってしまうそうです。十月を過ぎると、クラフトの材料としてドングリや落ち葉を拾ってくるものが多く、観察して歩くことは少ないということでした。

五・六歳の幼児の場合、観察に集中できる活動時間は、個人差も大きいがほぼ一時間程度。そのために出前する側の心得として大切なことは、より効果的な観察ポイントを見つけてくれることです。

事前（二、三日前まで）にコースを下見し、ポイント候補を数か所見つけておく。そして当日の活動前に再度コースを歩き、その日の状況（特に昆虫などの小動物）により観察ポイントを決めることにしています。



日だまり草地で生きものと出会う 上町保育園提供

それでは、今回の観察ポイントと観察のようすをいくつか報告します。
ガマズミの赤い実と種



林縁の土手などにはどこにでもある人気者。野鳥が食べているのを見た子は数人。食べた子はいない。「おじさんは子どもものころよく食べたよ」に一瞬静まり、次いで「食べたい」反応数人。結局はみんなが食べることに。食べながら堅いつぶに気付く。つぶを出してじっくり観察し、実の中の種を体感。

ムクノキの青い実とヒヨドリ

予想どおりのにぎやかな鳴き声。何をしているか静かに観察し、実を食べていることがわかった。(そのあと、野鳥は実を飲み込んでしまうので種も一緒に食べてしまうことや、種は糞と一緒に出すこともおしえる)。鳥と植物のつながりがわかった。

日だまりの草地と生き物

背の低いイネ科植物の繁茂する晩秋の草地は、枯れ草と緑の混在するとても温かい空間を提供してくれる。気温の下がる季節の絶好の観察ポイントだ。

キチヨウ、ウラギンシジミ、シヨウリヨウバツタ、ツチバツタ、クビキリギス、セイヨウミツバチ、アマガエル、ダンゴムシ、ゴミムシ、クモの仲間など数分間に観察できた。寒さで死んでしまつ種の多いことも伝えるなかで、小さないのちへの感性をも育んで欲しいと願つ。



牛久自然観察の森だより 大作真智子

「ジャパンバードフェスティバル」

オオバン賞！受賞報告

十月二十三日(土)・二十四日(日)の二日間、千葉県我孫子市にて「ジャパンバードフェスティバル」が開催されました。

行政・NPO・学生や市民団体による「鳥と鳥を取り巻く環境」についての展示や催しの他、絵画展・全日本バードカービングコンクール・鳥フォトコンテスト・鳥グッズの販売など、まさに鳥づくしの二日間です。

担当レンジャー二名(大作・木谷)にとつては初めてのバードフェスティバルでしたが、毎年ご協力をいただいている「牛久とりの会」のみなさんと一緒に、夏から準備を進めてきました。

観察の森で見られる野鳥の写真に加え、定例バードウォッチングの過去十年間の記録、フクロウの人工樹洞の展示と今年の様子を写真で紹介しました。また、紙とストローで作る簡単な工作「パタパタ鳥づくり」と「鳥のあしあとクイズ」など、子どもから大人まで参加でき



毎年人気の「パタパタ鳥」、牛久とりの会会員さんが改良に改良を重ねた力作です

る催しを行います。当日は天候にも恵まれ、観察の森のブースは大盛況。こども連れの家族からベテランバードの方々、また観察の森の環境や活動に興味を持って立ち寄ってくださる方など、二日間で延べ七百五十名以上の方に



受賞に喜ぶ出展者の皆さん

お越しいただきました。そしてイベントの終わりにサプライズが…。なんと、バードフェスティバルの最高賞「オオバン賞」に選んでいただきました！驚きと嬉しさのあまり、思わず飛び上がってしまいました。

これも、長年ご尽力いただいている「牛久とりの会」のみなさまと、観察の森の野鳥に関わるさまざまな活動にご協力いただいたみなさまのお陰と、心より感謝申し上げます。

今後、観察の森ならではの方法で鳥の魅力を伝え、より多くの方が鳥に親しめる活動をつづけて行きたいと思えます。

運営委員会からのお知らせ

坂弘毅

先月予定されていましたが、うしく里山秋祭りに際しましては、天候不順のため中止となりました。事前に準備されました各プロジェクトの皆様には大変ご苦勞様でした。

一、公開里山セミナーの件

平成二十三年一月十五日(土)

午前十時～十二時

ひたち野リフレ四階会議室

今回のテーマ

「ナラ枯れの原因と防止対策」(仮称)

講師 独立行政法人森林総合研究所

森林昆虫研究領域 領域長 牧野俊一氏

全国的に問題となっている、梢枯れの原因とされる、カシノナガキクイムシの実態を知り、関東地方に入る前に対応できることはないのか、を勉強します。(詳細については次号でお知らせします)



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦 齊藤 孝

エコアップ作戦 参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

十二月の活動日時

十二月三日(金) 午後九時～十一時半

十二月十九日(日) 午後一時～三時半

集合：牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

予約不要 / 荒天時は中止 ホームページに情報掲載

掲載

持ち物：長靴、軍手(長袖、長ズボン)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ

問い合わせ先：029-874-6600 担当：石神



牛久自然観察の森だより

渡邊 浩美

植物調査ボランティア・募集のお知らせ

牛久自然観察の森では、今年の四月から月に一回づつ、モニタリングサイト1000里地調査と同様の植物調査を行っています。この調査は、ボランティアを中心に、長く地域の自然環境の変化をとらえるために行っています。

集合：牛久自然観察の森

タヌキの林・ドングリ広場

調査地：牛久自然観察の森およびその周辺

調査日時：毎月第四金曜日 午前十時～正午

*但し十二月は、二十一日(火)です。

定員：十名(事前登録制です)

*初心者でも参加できます。

植物を一緒に勉強しませんか?

問合せ先：牛久自然観察の森(担当・渡邊)

TEL 029-874-6600

お詫び

十一月号で下記の「今月の古木・希少木」の筆者は坂根輝一氏でした。お詫びし訂正いたします。

今月の古木・希少木 No.44 ハンノキ

カバノキ科ハンノキ属の高さ十五mほどになる落葉高木です。低湿地や地下水の高い所に生育します。牛久市内では猪子町の蚕影山神社の境内で幹周二〇七cmの古木が見られますが、かつてこの神域周辺は窪地で排水不良地だったことが石碑に書かれています。その他、小野川の川岸などに点々と生えています。

樹皮は暗灰褐色で、不規則に浅く裂けてはがれます。葉は互生し、ふちには不揃いの浅い鋸歯があります。葉身は長さ五～十三cm、幅は二～五cmの卵状長楕円形です。

花は雌雄同株で、葉が展開する前の二月頃に開花します。雄花序(写真右側中央部)は長さ四～七cm、始め枝先に二～五个直立しますが、後に垂れ下がります。雌花序は雄花序の下方に一～五个つきます。

果穂(写真左側の二個)は球果状で長さ十五～二十mmで、多数の果実(堅果)を含み、十月頃熟します。堅果は扁平、倒卵形、長さ約四mm。果穂はタンニンを含み染料として利用されます。

ハンノキ属の

根には放線菌が共生し、空中窒素の固定を行っているため、湿原のような貧栄養環境でも高木として生長できます。

果穂と雄花序の若いハンノキ (村尾重信)



2010年12月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	3 エコアップ 作戦 9:00NC	4 親子農業体験講座 9:00畑 チーム'佐路樹20(受) 年末懇親会 フォト入賞作品展 (~19日まで)
5 巨木リサーチ2(特) 9:00ボランティアC	6 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	7 森の畑 9:30畑	8	9 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	10	11 里山自然観察隊 (モコリケ里地調査) 9:00得月院P
12 雑木林応援隊 9:00ムジナ (会報等原稿〆切)	13 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	14 森の畑 9:30畑	15	16 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	17	18 (会報等原稿〆切)
19 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC エコアップ作戦 13:00NC フォト表彰式 14:00NC	20 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	21 森の畑 9:30畑	22	23 (天皇誕生日) 雑木林応援隊 9:00炭屋	24 (休園日)	25 チーム'佐路樹20(受) 13:00市ホランテアC (交流会) (会報原稿確認)
26 雑木林応援隊 9:00炭屋	27 (休園日)	28 会報発送 13:00NC	29 (休園日)	30 (休園日)	31 (休園日)	

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページ)のお知らせ欄をご確認ください!

【凡例】

森：牛久自然観察の森
NC：牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P：牛久自然観察の森駐車場
炭小屋：牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑：牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジュケイ：牛久自然観察の森コジュケイの林
観察舎畑：牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ：結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所：牛久市役所本庁舎
ボランティアC：牛久市ボランティア
市民活動センター
中央生涯C：牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園：三日月橋観光アヤマ園

(休園日)：牛久自然観察の森休園日
(受)：受託事業
(特)：特別事業



編集後記

今月、小野川探検隊のスタッフとしてこども達の自然探検に参加しました。前日は市役所の人たちを含め数名のメンバーで現地(小野川)の草刈りを行い、行動しやすいようにきれいに清掃しました。

行事の当日は近隣の市町村からスタッフを含め、約一五〇人が参加し三グループに分かれて、中根小学校から小野川流域を歩きましたが、最大のイベントは小野川に入り子魚や小さな生物を観察する行事です。

途中ではムクノキに小さな実が紫色に熟してついていたため、皆に食べさせてみましたが、大半の子は初めてのことがか。恐る恐る食すると反応は「ウワツ、マズイ!」「甘い!」と神妙な顔で食べていました。「私たちが小さい頃はお菓子もなくよく食べていたよ!」皆驚いていました。また、途中では土手に生えていた「からし菜」の葉を食べさせたら「辛い!」「漬物の味だ!」。

そして、最大のイベントとして、全員で小野川に入りました。小さな魚を捕まえたり、貝の化石を見ついたり皆大はしゃぎです。それぞれ、こども達に聞いてみると、こんな川に入るのはほとんどの子が初めての体験で、楽しくて終わりの合図にも止めようとはしません。

この体験で感じたことは、自然の実を食べたり川に入ったりの環境が、身近にないことを思い知りました。もっと自然とふれあう機会がほしいものです。

最後に、牛久市役所の方が作った焼き芋を全員で食べて解散しました。
(佐藤輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号2011年1月号の発送は12月28日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いいたします。